一色町に生息する野鳥

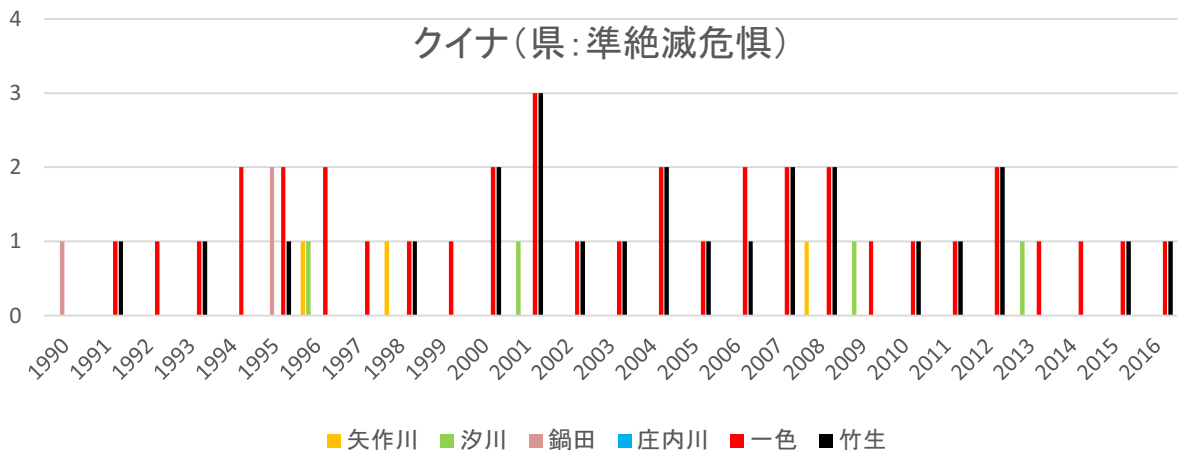
愛知県では、50年前より県内20箇所以上の場所で、毎月1回以上継続して野生鳥類の生息調査を実施している。その中で「矢作川河口」・「汐川河口」・「鍋田」・「庄内川河口」の4箇所を沿岸部の湿地環境の代表として選択している。

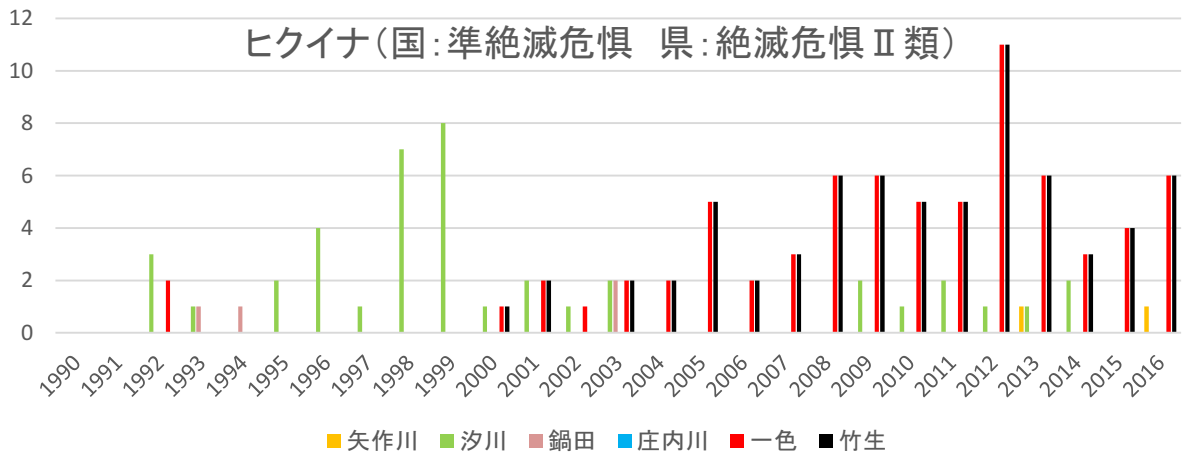
県内において、この4箇所と同等の面積があり、野鳥の生息に適した環境が残されているのは、西尾市の一色町沿岸部のみである。

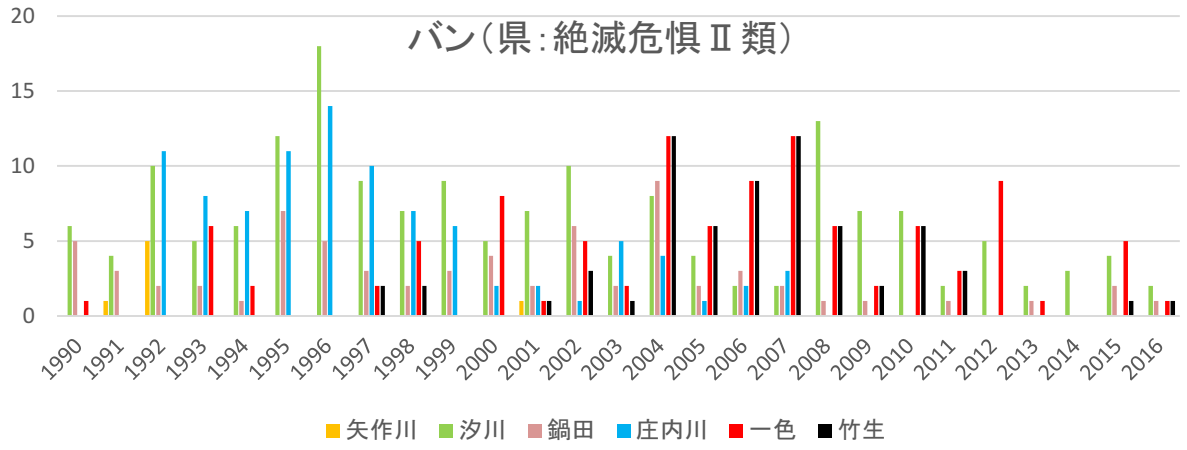
一色町沿岸部には、かつて実録地内に残されていた塩田跡が国内でも希有な野鳥の生息地として知られていたが、1990年代から産業廃棄物の処理施設となって野生鳥類の生息数環境は消失した。

現在、産業廃棄物の処理施設が計画されている一色町竹生新田も、野鳥の生息地として良好な環境であり、その後も一色町内では埋め立てや太陽光発電等の設置で湿地やヨシ原が消失する度に、ここを生息地として集合する野鳥が増加している。

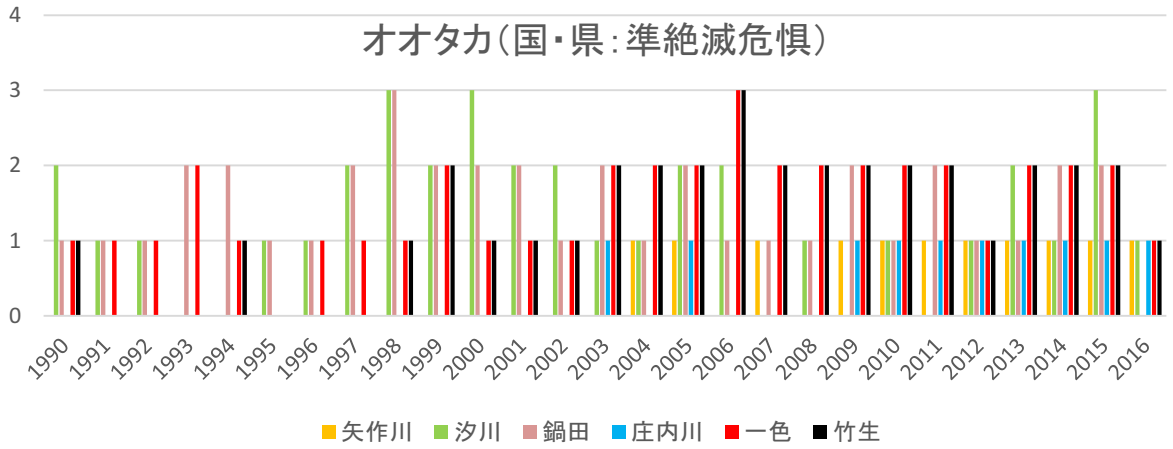
以下のグラフは、愛知県の調査記録に、西三河野鳥の会が一色町全体で確認し記録した数を赤色■で、さらにその中で竹生新田で確認し記録した数を黒色■で示し、同一のグラフに表した。



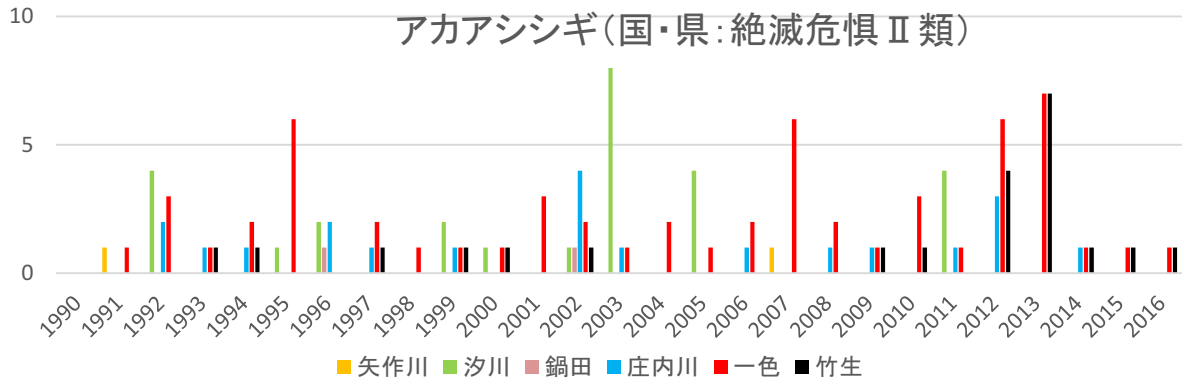


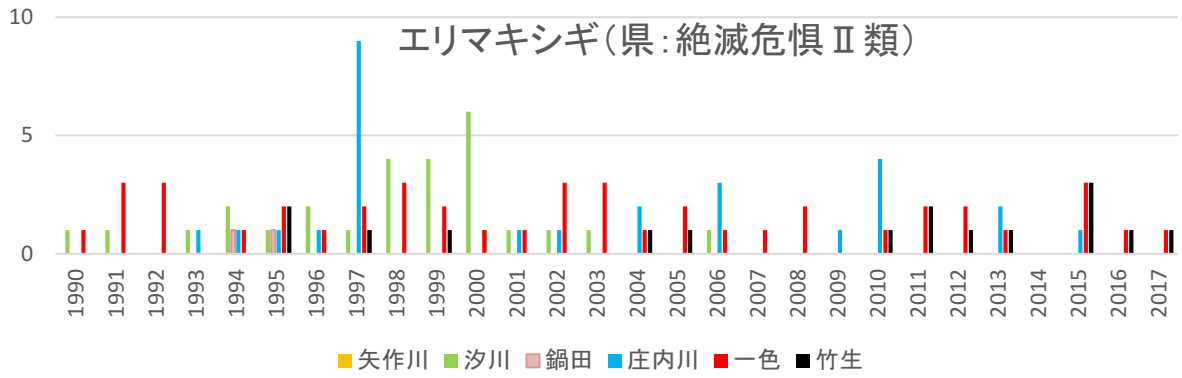


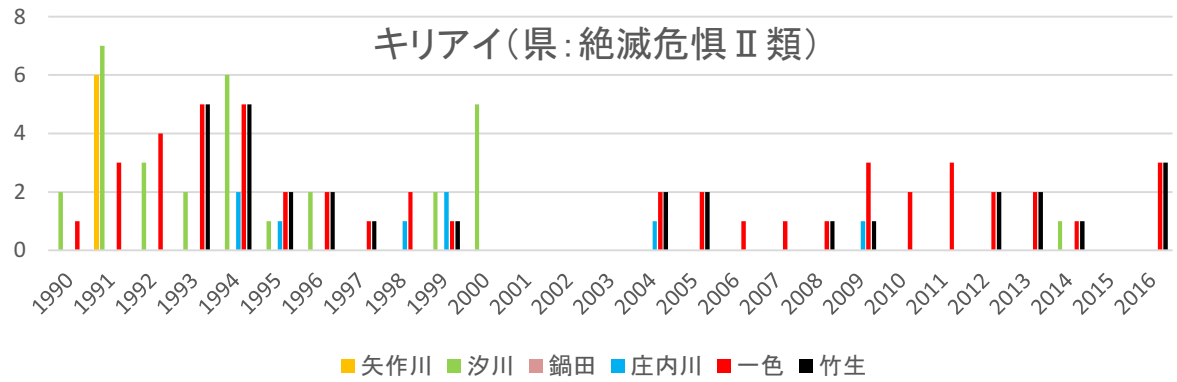
クイナ、ヒクイナ、バンは県内で繁殖するクイナの仲間である。クイナとヒクイナは生息数の少ない種、バンは近年繁殖数や生息数が激減していることから絶滅危惧種に指定されている。

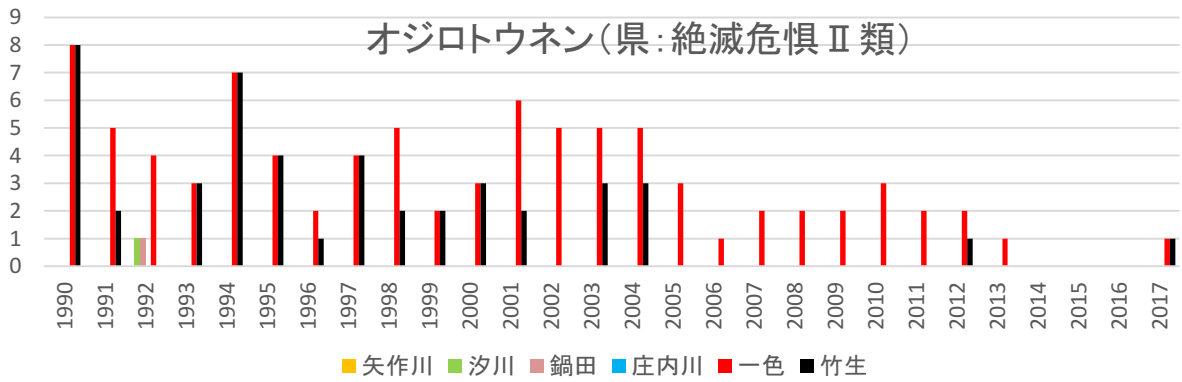


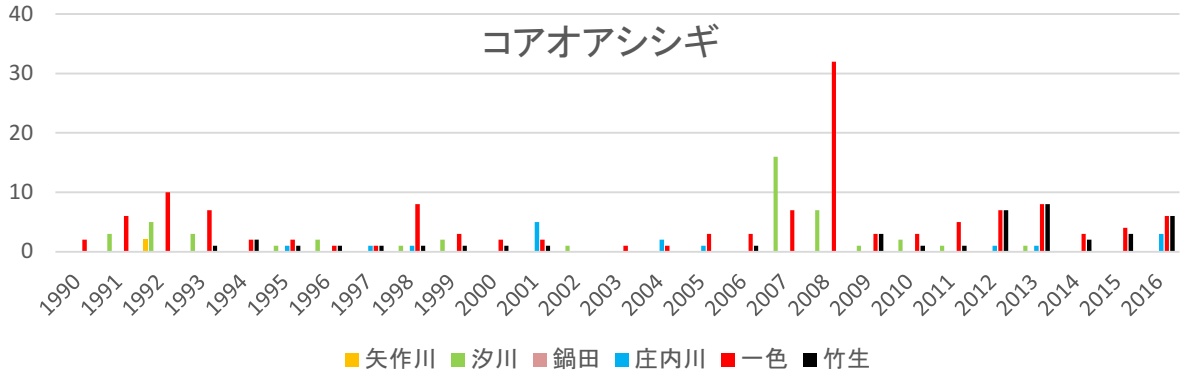
オオタカは、近年繁殖分布が平野部まで拡大して、生息数が増加してきたことで希少野生生物から除外された種であるが、現在でも絶滅危惧種に変わりはない。
愛知県における山間部での生息数は減少しており、平野部への進出は増加して有害鳥獣にも指定されているハト類やムクドリ、ヒヨドリ等 の捕食目的が最大の要因である。

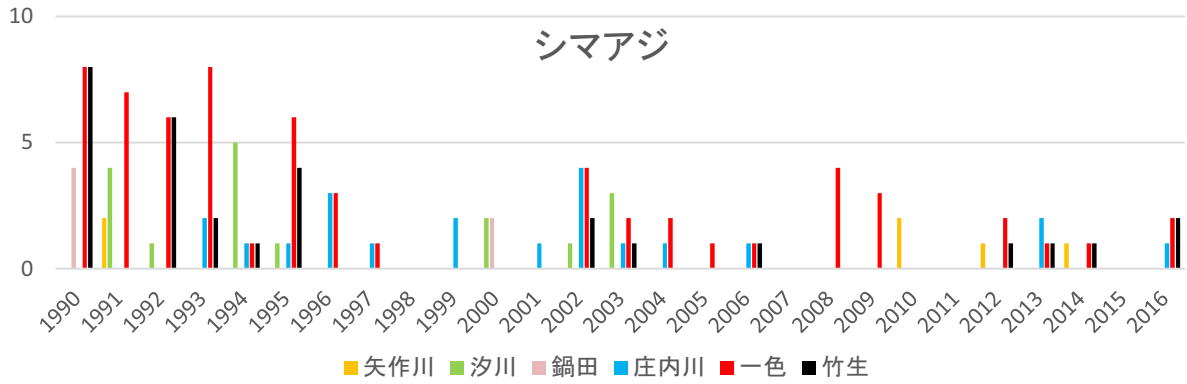

アカアシシギ（国・県：絶滅危惧Ⅱ類）
10
5
0
1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016
矢作川 汐川 鍋田 庄内川 一色 竹生

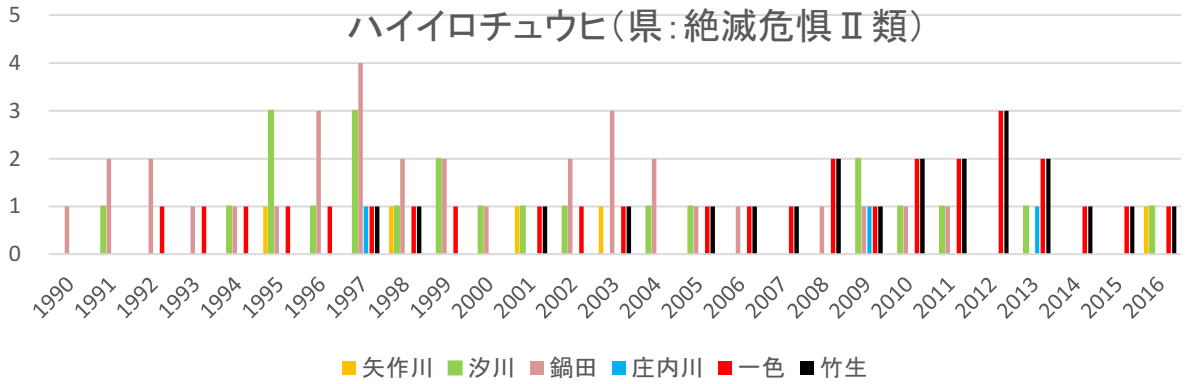

エリマキシギ（県：絶滅危惧Ⅱ類）
10
5
0
1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017
矢作川 汐川 鍋田 庄内川 一色 竹生


キリアイ（県：絶滅危惧Ⅱ類）
8
6
4
2
0
1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016
矢作川 汐川 鍋田 庄内川 一色 竹生

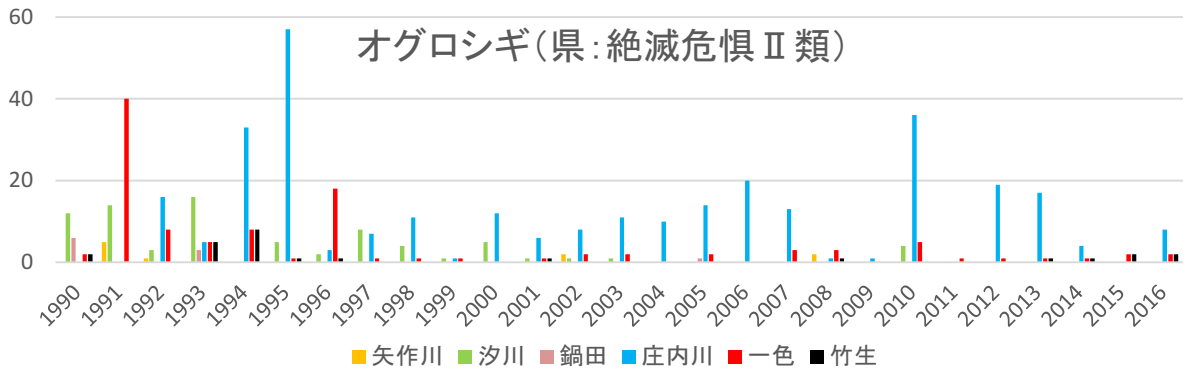

オジロトウネン（県：絶滅危惧Ⅱ類）
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017
矢作川 汐川 鍋田 庄内川 一色 竹生

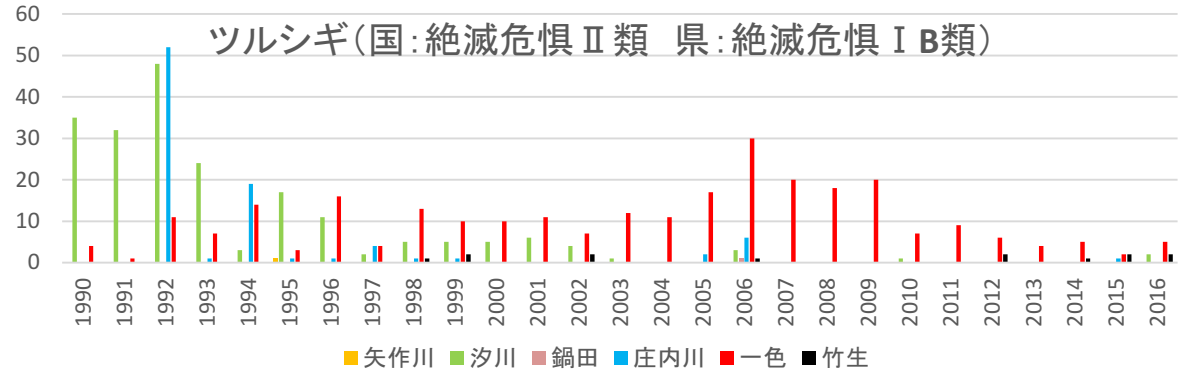


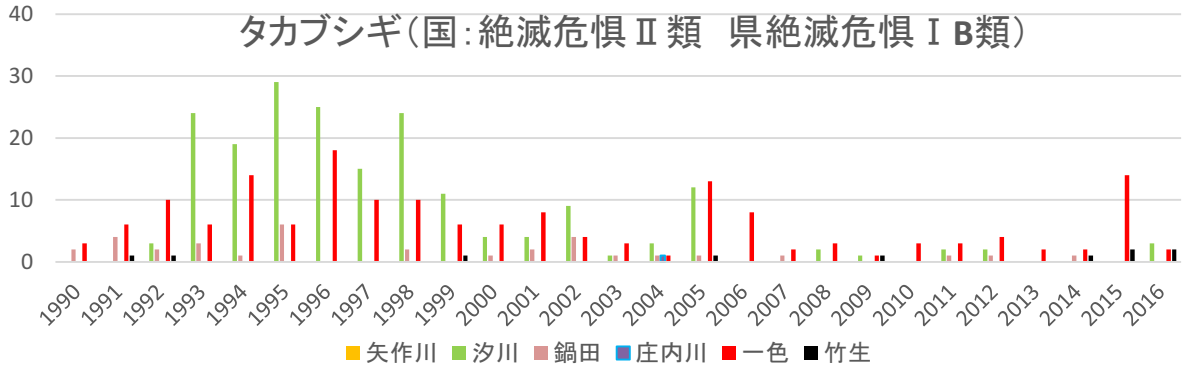


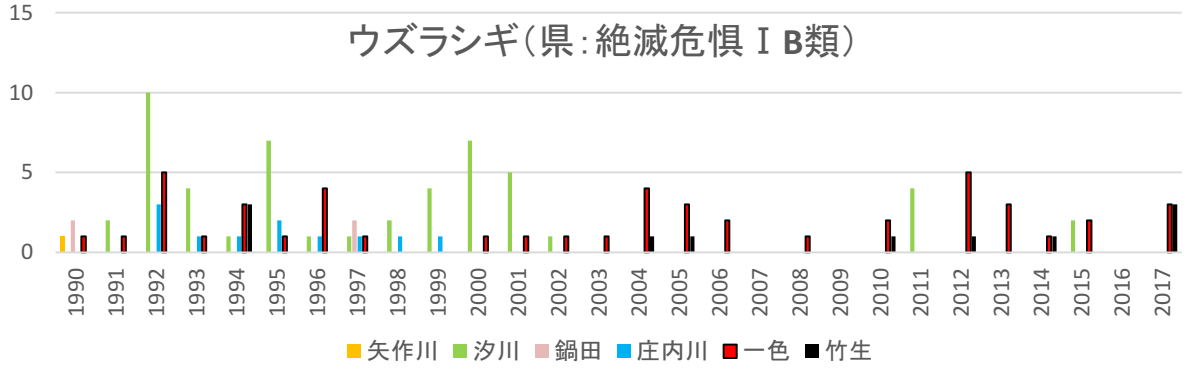


この7種は、国内では比較的生息数が少ない種である。一色町にはこの他にも希少な野鳥が多く生息することから、実録新田の塩田跡の環境が残されていた頃より全国から野鳥観察者が多く訪れており、現在も同じく竹生新田には野鳥観察者や野鳥写真の撮影者が集まっている。

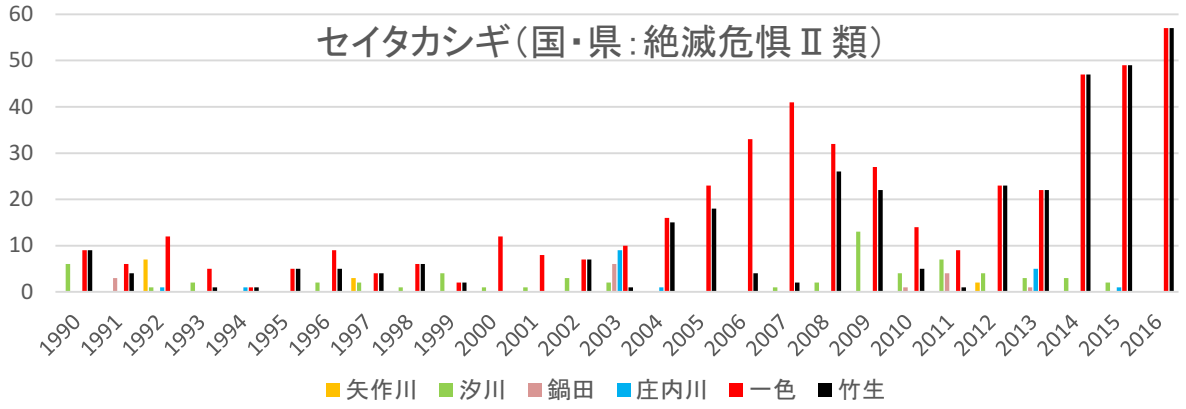








上記4種は、1980年頃までは比較的生息数が多く普通の鳥とされていたが、その後、生息数が激減したことで、現在では絶滅危惧種に指定されている種である。シギ・チドリ類の大半がこの頃を境に激減しているが、中でも淡水や汽水を生息地とする水鳥の減少が著しく、竹生新田の湿地やヨシ原は、こうした水鳥の生息環境として貴重な環境なのである。



セイタカシギの全国における生息数は、全国一斉調査の記録で2014年は183羽、2015年は127羽である。産廃施設の計画地である竹生新田は、多い時にはその30％以上が生息しており、国内におけるセイタカシギの最大生息地である。

国内におけるセイタカシギの主な繁殖地は、三河湾と東京湾である。セイタカシギの繁殖成功率は極めて低いことが知られており、三河湾と東京湾以外の地域においても希に繁殖記録はあるが、継続している例は無い。

今年（2017年）、国内で孵化が確認されたセイタカシギのヒナの数は、東京湾全体で28羽、三河湾全体では64羽の合計92羽であるが、実にその60％にあたる55羽が、今回の問題となっている産廃施設計画地である一色町の竹生新田で孵化したことが確認されている。

今回グラフで示した16種は、その一部であり、愛知県および国内全般の沿岸部に生息し、絶滅の危機にさらされている種が数多く知られている。

今回計画されている産廃処理施設計画が実施された場、一色町や愛知県のみならず、全国の沿岸部に生息する野鳥種の多くに絶滅の危機が及ぶことは国内でも、最大の影響が容易に予想されるセイタカシギのみならず、その他の多くの種についても確実に予想がされているところである。

1970年以降に一色町で確認された野鳥は20目54科271種